

獨逸鐵鋼業の近況

其一 (The Iron & Coal Trades Review Mar. 28, 1919.)

K

O

生

(本記事は最近發行獨逸新聞より拔萃せしものなり)

鐵鋼

獨逸製鐵業者は瑞典鐵鑛生産業者との間に一九三〇年に至る迄一貫せる購買契約をなせり、之は全く變革せる基礎に於て契約條件を修正して安全に決定せるものなり。價額は高率なるを以て發表を憚る所なりと云ふ。

現今聯合軍に領有せらるゝライン、ウエストフアリア地方に對して鑛産物の交附は最初ストラスブルグ及キールに於ける上方ライン倉庫の貯藏品を供給せり。ギューテホーフ、メンング、鎔鑛所及フリードリツヒ、アルフレッド、鎔鑛所より下ライン港まで水路に依りて發送せる二五、〇〇〇噸、其の他尙ほクルツプ會社等の疑問たりし交附は聯合軍によりて遍く探究せられたり。ジールゲルランド鐵鋼企業組合は鐵鑛(²)は燒きて粉末となる(¹)一噸に付一〇馬克に上騰せり。

ジールケルランド鐵鑛價額の上騰は必然の結果、銑鐵企業組合をして銑鐵價額の引上げを餘儀なくせしめ四月一日より之を實施せらるへし。此外若し鐵道賃金の増額せる時は企業組合は豫め相場を修正せらるへし、又價額の騰貴せる時は凡て見本に依りて解決すへきこと、從て其支拂は規定に依りて行はるへきこと等を決定せられたり。

和蘭は米國に四〇、〇〇〇噸の鋼を注文せりと傳へられたり。和蘭は他國(慥に獨逸)と契約あるを以

て此の分量を超過せざるへし。

戰時中、中止せるソサイテ、デ、オーグレー、マリハエーは其の作業を開始し、四箇のブラスト、フアネス中、既に二箇は操業せり。

鋼に於ける大陸企業組合

白耳義鐵鋼商團は白耳義鋼企業組合の組成に關して着々商議の進行せられたるを報せらる。此の指揮の努力に至りては佛蘭西の誘導に依るものなるへし、前者は自由に且つ容易に合同せらるる地方なるを以て結束企業組合の組成を提案せるものなり。近く獨領ローレンを佛國に讓與し又ザール地方か佛國の利益圈内に包括せらるれば、佛蘭西の鐵鋼業は莫大なる増加を來すへし、殊にルクセンブルグ鋼業か佛國と利益を共有にし又白耳義も之に包含せらるゝに於てをや。

一方に於て鋼企業組合は南西獨逸及ルクセンブルグ等の撤退に依りて其眼目を失ふへし。元來鋼企業組合の終局點は將來萬國企業組合(デヨイスト、レール等)の組成に向て地位を進行せしむるにあり。若し夫れライン共和國か獨立を形成せらるれば、佛國は兼て計畫せられたる鋼に於ける大陸企業組合の組成に向て、現在經營の地方に於ける工作を總括して之に賛同すへしと云ふ。

會社近信

過去二ケ年間に於ける各會社の財政狀態は次表の如し。

會社名	純 益		普通株に於ける配當歩合
	一九一六—一七年	一九一七—一八年	
ケーニヒ、ウイルヘルム、炭坑所	—	—	二〇%
アレンブルグ鑛業會社	一三三・〇〇〇	一一六・〇〇〇	*
製鐵所	二〇・〇〇〇	一七・〇〇〇	一〇

ウルフエル鐵工所

一五

一六

バディニア機械製造所

三一・〇〇〇

三五・〇〇〇

一〇

一〇

サキソニー鍍金壓延工場

四五・〇〇〇

四三・〇〇〇

二〇

二〇

ハルゲリール熔鑛所

六・〇〇〇

八・〇〇〇

一〇

一〇

ハイマイ鐵道陸軍工廠

一六・〇〇〇

一四・〇〇〇

一二

一〇

ザオルトーム綱鉤鎖製作所

二八・〇〇〇

三〇・〇〇〇

三五

三五

*記號は一九一六——一七年に於ては一株四五〇馬克なるものに付二二五馬克なりき。

其二 (The Iron & Coal Trades Review. April 4. 1919.)

鐵鋼

グラングスベルグ商事會社は獨逸鐵工業の爲めに瑞典より引渡せる鐵鑛一一〇、〇〇〇、〇〇〇馬克(五、五〇〇、〇〇〇磅)價格一馬克に付鑛石八九の信用貸を承諾せりと報せられたり。

コツペーヘイゲンよりの通信に依れば、英國工業社界の通報として、英國政府は近き將來に於て獨逸鐵鋼を丁抹に輸入することを禁止するに至るへしと。之丁抹の工業上非常に重大事件たるなり、元來丁抹は英國及瑞典より鐵鋼の供給を仰けるものなるか、實際其の價額に於ては獨逸相場より遙かに高價なるものなればなり。

三月二十一日に於ける銑鐵企業組合は特にファウンドリ銑の大なる維持を催告せりと云ふ。一月と比較して二月に於ける引渡は進歩を示せり、然れとも之は生産の増加に非ずして、一月に於ける運搬困難の結果、其の蓄積せるものを輸出せるに過ぎざるなり。價額問題に至りては四月一日よりコクス相場の大なる騰貴に依りて著しき變動あるべきを以て其の後の集會まで延期せられたりと云ふ。

鋼企業組合の組成に就ては六月の終りに於て商議を終了せらるへし、畢竟確乎たる基礎の上に完

備せる機關を建設せらるゝに至るへし。

パデラス製鐵會社は資本金二〇〇、〇〇〇磅の増加を提議せり、其の半額はヒルゼンハーン會社に於て負擔する所なり。バルバツハ、アイヒ、デューデリングン會社はゲルセンキルヘン鑛山會社のロース鑛山部及ルクセンブルグ熔鑛部を收得せんことを提議せり。

銑鐵及鋼の生産

鐵鋼業者組合は本年一月に於ける其生産額を報告せり、即ち

銑鐵 四九九、三五二噸、鋼 五六五、七八〇噸、壓延產物 四七七、一四九噸等なりとす。併し之等の分量は聯合軍に占領せられたる區域に於ける產額を控除せざるへからざるを以て、之等の全部を悉く内地市場に供給せらるゝものにあらず。其控除すべき分量は

銑鐵 九五、二五五噸、鋼 九五、九八一噸、壓延產物 八二、二五七噸等なり。されは純内地產額は銑鐵 四〇四、〇九七噸、鋼 四六九、七九九噸、壓延產物 三九四、八九二噸等とす。一九一八年十二月に於ける產額は左の如し。

銑鐵 三九〇、七七二噸、鋼 四二四、一八九噸、壓延產物 三三四、五二八噸等なり。

會社近信

次表は過去二ヶ年間に於ける各會社の財政状態を示せるものなり。

會社名	純	益	普通株に於ける配當歩合
コルン新炭鑛會社	一九六一一七年 四三二・〇〇〇 _磅	一九一七―一八年 三四二・〇〇〇 _磅	四〇%
ケ―ニヒ、ウイルヘルム炭鑛會社	二一〇・〇〇〇	九〇・〇〇〇	二〇
アイセデー鐵工所	―	―	三六
			三三
			一一
			三三
			一一
			三三
			一一

グスターブ、ゲンシヨール會社	二五・〇〇〇	二四・〇〇〇	一八	一四
オツテンセン鐵工所	—	—	一二	一〇
グリツナー機械會社	八五・〇〇〇	六七・〇〇〇	一五	一五
ハンブルグ鐵青銅製作所	—	—	一八	一六
マグデブルグ機械製作所	三一・〇〇〇	二五・〇〇〇	一八	八
ラツド、レー機械會社	一四・〇〇〇	三・〇〇〇	一〇	八
金屬品製作所	七・〇〇〇	九・〇〇〇	五	八
パウクシ機械會社	六・〇〇〇	八・〇〇〇	—	—
フリーゴ、シユナイダー金屬製作所	—	—	二〇	三〇
ストルーバー機械會社	一三・〇〇〇	九・〇〇〇	一五	一五

南滿洲小製鐵業に關する調査

藤 平 田 文 吉

一 緒 言

歐洲戰亂勃興以來英米兩國の鐵輸出禁止に依り我國は鐵の不足を感ずること痛切となり鐵材鐵製品其他金屬品の暴騰甚たしく、殊に亞米利加の輸出禁止以後上下擧つて鐵の自給自足を叫ぶに至り、其結果遂に第四十議會に於て製鐵業の保護獎勵を爲すと云ふ法律案をも提出さるるに至れり。斯くして製鐵業が非常に有利にして且つ政府の保護を受くることを得ると看取したる製鐵業者が從來經營したりし事業を擴張するは云ふ迄もなく新に製鐵業を企畫するもの接踵し日に月に増加す